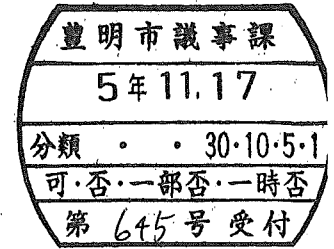


<参考>様式第4号

令和5年11月17日

豊明市議会議長 殿



研修会・講演会等参加報告書

議員名 岡島 ゆみこ

令和5年度豊明市議会政務活動費にて下記の研修に参加しましたので報告します。

日付	研修先	研修項目及び成果等
令和5年10月25日 ～ 10月26日	福岡県 北九州市小倉 (西日本総合 展示場新館)	第18回 全国市議会議長会研究フォーラム 「躍動的でワクワクする市議会に」 「統一地方選挙の検証と地方議会の 課題」 「議員のなり手不足問題への取り 組み」 別添：報告書

(注) 別紙添付も可能とします。

(注) 本報告書は5年間公開します。

2023年視察報告書

会派清和

第18回

全国市議会議長会研究フォーラム in 北九州

レポート

●統一地方選挙の検証と地方議会の課題

日時：令和5年10月25 ・ 26日

13：00～ 9：00～

場所：福岡県北九州市小倉北区

西日本総合展示場

令和5年11月作成

25日

基調講演 「躍動的でワクワクする市議会に」

片山 善博 大正大学教授兼地域構想研究所長

パネルディスカッション

「統一地方選挙の検証と地方議会の課題」

コーディネーター 谷 隆徳 日経新聞社編集委員

パネリスト 勢一 智子 西南学院大学法学部教授

辻 陽 近畿大学法学部教授

濱田 麻里 Stand by Women 代表 女性議員ハラスメント相談センター共同代表

田仲 常郎 北九州市議会議員

26日

課題討議「議員のなり手不足問題への取組報告」

コーディネーター 江藤 俊昭 大正大学社会共生学部公共政策学科

事例報告者 辻 弘之 登別市議会議員

たぞえ麻友 一般社団法人 WOMANSHIFT 理事 目黒区議会議員

永野慶一郎 枕崎市議会議員

「躍動的でワクワクする市議会に」片山善博

「地方議会をめぐる減とこれまでの地方議会改革を検証する」「日本の地方議会にかけていることは何か」「現行の議会の権限を活用してもっと積極的に取り組むべきこと」「議会の常識と市民の常識をすり合わせる－市民が首を傾げることは」「今ふり返って議会に感謝していること」を拝聴しました。

うまく回っている議会は議会で緊張感が薄れ、馴れ合いになっていないか。議案や予算をそのまま受け流してはいないか。など議会のあり様と意識改善の必要な点をいくつか指摘されていました。

パネルディスカッション「統一地方選挙の検証と地方議会の課題」では投票率の低下傾向が続いている現状で過去最低の数値となった。そんな中、今回の大きな特徴として、女性議員は県議会、市議会町村議会いずれも全体の10%～22%の増加の結果が出た。女性議員当選者の多い議会では日進市が全国3位、女性の占める割合は50%でした。

その反面、依然として無投票当選も多く、道府県議会は全体の25%市議会3.6%町村議会は30.3%にも上る。また、定数割れも21市町村あり、定数を減らしてもダメだった町議会も存在する。

我が国の人口減少は東京圏、沖縄県など9都府県以外は続いている。2040年には人口の3人に1人が高齢者になる。

議員職が本業であることが望ましいとされているなか、今後、人口構造は大きく変容していくと予想され、人口減少と高齢化は避けられない。多様性を求められるようになり、多

様な人材が必要になってくる。

勤労者、女性、若者、育児、介護に携わる者の議会参画などである。このような前提とした場合、議会開催時間、ハラスメント相談、小規模市町村における処遇改善も考えなければならない。

議員のなり手不足問題の課題。人口規模が大きな自治体では専門化できるが、そうでない自治体では兼業しないと生活ができない。首長と議会が「二元代表制」としての理想は議員が議会活動に専念できる「専門化」が望ましが小規模自治体において議会活動に専念するには相当困難である。

地方議員に対するハラスメントの現状。立候補を検討中、準備中に支援者や有権者、議員などからハラスメントを受けた人は全体の61%。議員活動や選挙活動中では全体の42%である。性的、暴力的な言葉、性別に基づく侮辱的な態度や発言、SNS、メールなどによる中傷などである。有権者からは不審な電話、住所公開によるプライバシー侵害、ストーカー行為、誹謗中傷などがあげられている。「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律の一部を改正する法律」が2021年6月に公布、施行された。

独自のハラスメント対策を実施している議会は15議会とまだまだ少ない。相談体制や議会内のルール作りが重要となってくる。個々人で解決するのではなく、仕組みの中で解決できるようにしておく。ハラスメント倫理条例等の世艇を行い、ルール作りをしておくことが重要である。

議員のなり手不足は住民自治の劣化を招く。打開策を探るには要因を探る必要がある。

魅力の減退、条件の悪さ、人口減少、集落の衰退、法律の縛りなどが直接かかわる要因。

間接的には政治への関心の希薄化、人口減少、高齢化である。解消の一つに女性の政治進出があり、多様性の実現でもある。

女性議員のなり手の育成が必要。そもそもなろうと思わない人、なり方を知らない人、鳴ってもやめてしまう人を対象にそれぞれに合ったプランディングを設定し講演、講座、勉強会を実施していく。その一つ一つが女性の声を政治につなぐ活動となってくる。

所感

投票率、無投票、定数割れなどすべての根幹は国民全体において関心度の低下や無関心であることが原因であるという結論に達した。特に若い世代は選挙、政治どちらも関心度はとても低い。一般職のように、キャリアや年数で昇給がないため、30代40代では子育てしながら家庭を支えていくには無理が生じる自治体が多くを占めているのではないか。議員という職は市民に明確に仕事の内容が理解されにくく、また誤解も多い。中規模、大規模の自治体では専門を求められる中、現職を辞めてまでや、両立してなどの無理がなり手不足の一つの要因でもある。

問題の解決は、これからの事情を加味すると更に困難になるのではないかと思われる。

